

コミュニティ・スクール通信@京都 2026



京都ならではの学校を核とした地域づくりの推進に向けて

－「コミュニティ・スクール」から「スクール・コミュニティ」へ－

京都市では、「地域の子どもは地域で育てる」という理念の下、学校運営協議会が法制化される以前から全国に先駆けて導入（R7：本市設置率 100%/全国平均約6割）を進め、保護者や地域の皆様の参画を得て、子どもたちのために行動する「学校の応援団」として幅広く学校運営にご支援いただくなど、地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクール）を推進してきました。

しかし、近年、地域コミュニティの担い手不足やコロナ禍後の地域活動の減少など地域課題が顕在化しています。その影響により、これまで学校と地域の繋がりに支えられてきた学校運営協議会をはじめ、体験活動や授業支援、登下校の見守り活動など地域学校協働活動への参画が得にくいなど、学校運営にも影響が及び始めています。

こうした状況を受け、京都市では現在、「コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティへ」というビジョンを新たに掲げ、学校施設は学校教育の場であることが前提の下、地域にとって身近な公共空間の一つである学校施設を拠点とした「多様な主体による豊かな地域活動」を通して、地域に活力を生み出し、その活力を教育活動の充実に繋げる——「子どもの健全育成」と「地域の活性化」の好循環の創出を図る京都ならではの学校を核とした地域づくり（スクール・コミュニティ）を推進しようとしています。

その姿を実現していくためには、学校・家庭・地域がこれまで以上に互いへの理解を深め、ともに役割を担い合うことが重要であると考えています。

令和8年度のトピックス

① 学校運営協議会の活性化に向けて（セルフチェックシートの活用）

学校運営協議会に関する現状の強みや課題を可視化し、今後の改善・充実に繋げていただくための自己点検ツールとして、本市独自に研究を重ね、令和7年度に学校運営協議会のめざす姿「セルフチェックシート」を作成しました。

(チェックシート)

本シートを理事会などでご活用いただき、学校と地域の皆様がともに学校運営協議会の本質に立ち返り、自校がこれまで大切にしてきたことやこれから力を入れていくべきことなどを共有するとともに、学校と地域共通の目標やビジョンを確認し合い、



「子どもの健全育成」の当事者として、双方が主体性をもって協力し合う関係づくりを進めるための一つの指標としてご活用ください。

② 子どもたちの教育環境の充実に向けた教職員の働き方改革について

昨年の法改正に伴い、学校運営協議会において、教職員の働き方改革に関する方針や内容を熟議することが求められるようになりました。子どもたちの教育環境の充実に向け、学校教育の要である教職員がいきいきと力を発揮できるウェルビーイングな環境をこれまで以上に地域の皆様と考えていくことが重要になっています。

より一層、学校と地域が現状を理解し合い、双方の立場・役割を尊重しながら協力し合うことが欠かせません。教職員は、専門性を活かした充実した教育活動を行い、地域の皆様には、日常の見守りや放課後・休日の学びの場づくりなどで子どもたちの成長を支えていただくなど、是非学校運営協議会において、各学校・地域の事情を踏まえながら、双方の現状や課題、思いなどの相互理解と適切な役割分担などについて熟議いただきますよう、お願いします。

地域社会で子どもを育む実践の輪が広がっています

教育功労者表彰【鳳徳小学校運営協議会】

ここが評価されました！

学校運営協議会の企画推進委員会が中心となり、生活科や総合的な学習の時間にゲストティーチャーとして関わるなど、教職員が地域と協働してできる取組を検討し、教育活動のさらなる充実を展開しています。また、教育課程外でも企画推進委員が中心となった活動を行っています。

更に、学校運営協議会の組織や活動について、広く地域の方々に知っていただくために、学校と学校運営協議会が協力し、ふれあい活動などの周知を行い、学校、地域、子ども、保護者とつながりがより一層強くなるように、積極的な情報発信を行っています。



総合的な学習の時間にゲストティーチャーとして理事が参加している様子



学校運営協議会の様子

※教育功労者表彰

本市教育委員会では、昭和24年以来、本市の教育、学術及び文化の振興発展に貢献された個人・団体に対し、表彰を行っています。

地域学校協働活動推進員が活躍しています！

「地域と学校をつなぐ架け橋」として、小学校を対象に、令和7年度に新たに地域学校協働活動推進員が市内14校に配置され、各校で活躍しています。推進員は、学校と地域の人材や団体との連携調整の窓口等を担い、子どもたちの学びや成長を支える活動を進めています。

また、学校と区役所・支所との連携が推進され、学校施設を拠点に、地域住民や地域団体の新たな交流の場が創出される事例も出てきています。

令和8年度は、さらに11校拡大し、計25校に配置される予定です。

【こんな活動をしています！】

○学校と地域の繋がりを深めています

学校運営協議会や地域学校協働活動の活性化に向け、「どんな学びが子どもたちにとって大切か」「地域として、どんな関わりができるか」などを地域の皆様とともに話し合っています。

○学校を地域の身近な場所にしようとしています

学校施設を地域コミュニティの拠点として活用できるよう、申込みの調整や鍵の管理、利用に関するサポートを行っています。学校がより身近な公共空間として、子どもも大人も集う豊かな場とすることを目指しています。

○学校を拠点に、新たなつながりを生み出しています

区役所・支所と連携し、学校施設を拠点とした地域住民の「居場所」と「出番」づくりの創出を通して、多世代がつながり、支え合う機会を生み出しています。



地域の伝統文化「剣鉾」を学校クラブ活動につなげる調整が進み、子どもたちの文化継承と地域住民の出番づくりの両立が期待されています。



学校支援関係者が集う「カフェ」を月1回開催。学校を拠点とした継続的な地域ネットワークの形成が期待されています。

令和7年度 コミュニティ・スクール研修会

「第1回コミュニティ・スクール研修会（令和7年8月）」及び「第2回コミュニティ・スクール研修会（令和8年1月）」、「コミュニティ・スクール特別研修会（令和8年3月）」の内容について紹介します。

<第1回コミュニティ・スクール研修会>

学校運営協議会の本質に立ち返って自校の強みと課題を見つめ直す機会となるよう、「セルフチェックシート」をもとに、地域・学校の役割や学校運営協議会の進め方を確認しながら、双方が共通の目標のもとそれぞれの役割を分担して協働することが、子どもの成長と地域の活性化につながることを改めて共有しました。



(説明動画)

<第2回コミュニティ・スクール研修会>

「教育環境の充実に向けた地域・学校の相互理解と適切な役割分担について」

教職員が子どもと向き合う時間の確保に向けた京都市における働き方改革の方針や内容、学校と教師の業務の現状等について学びました。

また、法改正に伴って、令和8年度からは学校運営協議会において、子どもたちのよりよい教育環境の充実に向けた教職員の働き方改革についても熟議することになり、地域・保護者と学校が相互に理解し合いながら、「学校が担うこと」「地域や保護者と分担できること」などを共有し、適切な役割分担の在り方を考えることの重要性を確認しました。



(説明動画)

「学校運営協議会の「めざす姿」に向けた今後の具体的な充実・改善について」

京都方式による学校運営協議会の「めざす姿」の実現に向け、地域主体・当事者意識・働き方改革の三つの視点から、今後の具体的な充実・改善の方向性を共有しました。学校だけでなく地域も主体となり、子どもたちを育む当事者として多様な人が参画することの重要性や、教職員の働き方改革を進めるための役割分担などについて理解を深めました。



(説明動画)

【情報交流会を実施しました】

昨年度に引き続き、同じ行政区の学校関係者及び地域の参加者でグループを作り各学校運営協議会での取組や課題を共有のうえ話し合いを行いました。



Topics

<コミュニティ・スクール特別研修会>

学校を核とした地域づくり（スクール・コミュニティ）の推進に向けて、先進的な取組をされている北海道安平町の井内聖教育長を講師としてお招きし、「学校を核に子どもが育つまちづくり」というテーマでご講演をいただきました。

早来学園の「学校の中に、まちをつくる。」という先進的な取組を通して、京都市が目指す地域・学校の連携・協働の姿と重なる考え方や「うちの学校で学ぶ意味／意義とは何か。」という本質的な問いが示され、参加者にとって、自校の在り方を見つめなおす機会となりました。

なお、本研修は、早来学園で行われている取組を再現していただくことを目的としたものではありません。その実践の根底にある理念や方向性、考え方を学び、各学校・地域の実情のもと、それぞれの現場で創意工夫につなげていくための示唆を得る機会としていただこうと企画したものです。



(説明動画)



「大学のまち・京都」の都市特性を活かした

CS ユースサポーター（若年世代の参画促進）試行実施について

京都が大切に育んできた学校と地域がともに子どもたちの学びと育ちを支える基盤を次世代へと継承していくためには、若年世代とともに学校やまちの未来を創りあげていく「共創」の視点が重要です。

その一歩として、令和8年度から、学校運営協議会や地域学校協働活動への若年世代の参画を促進する「CS ユースサポーター」制度を試行的に導入します。各校の状況に応じて、校園長の判断により委嘱が可能であり、必要に応じて会議や活動に参画していただくことができます。

目的

- ・学生をはじめとした若年世代の学校運営や協働活動への参画を促進し、若者ならではの視点により、学校や地域の活力に繋げる。
- ・将来的に学校運営協議会理事や地域コミュニティの担い手となる人材の育成・確保につなげ、持続可能な学校運営や地域社会の基盤づくりを推進する。

活動内容

- 主に以下の取組について、校園長からの要請に基づき、活動します。
- 学校運営協議会理事会に出席し、若年世代の観点から意見や提案を行う（承認権なし）。
- 学校・地域が連携する地域学校協働活動について、若年世代の観点から企画立案や運営支援など行う。

13年ぶりに京都市で開催！全国約1,000名の参加者とともに、地域・学校の「これから」を展望します。

全国コミュニティ・スクール研究大会 in 京都

「学校をひらく。共創の場へ。」

子どもたちの学びや育ちを支える地域社会を次世代へと引き継いでいくためには、学校と地域がともに力を合わせて取り組むことが欠かせません。

本大会では、京都市が法制化以前から20年以上にわたって積み重ねてきた実践を礎に、人のつながり・支え合いの希薄化や地域コミュニティの担い手不足などの地域課題が顕在化する中で、それら課題解決の糸口としての地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクール）と学校を核とした地域づくり（スクール・コミュニティ）の好循環の在り方など、学校をひらいた先に広がる地域・学校の「これから」を展望する機会とします。

全国からの参加者同士が日々の取組や先進事例を共有し、意見を交わすことで、コミュニティ・スクールの質的向上に向けた方策や新たな可能性などを見出す場とすることを目指しています。

学校と地域の次なるステージとともに描く京都大会へ。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

日時

令和8年11月14日（土）10:00—16:00（予定）

会場

国立京都国際会館（京都府京都市左京区岩倉大鷲町4-2-2） ※最寄り駅：京都市営地下鉄「国際会館」

対象

学校管理職・教職員、行政職員、学校運営協議会委員、PTAなど

申込

令和8年8月頃に申込開始（ホームページ等で案内します）／参加費無料



京都市教育委員会事務局 生涯学習部 学校地域協働推進担当

〒604-8064 京都市中京区富小路通六角下る骨屋之町 549

電話：075-251-0456 FAX：075-251-0449

URL：<http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000038884.html>

掲載している写真は、令和7年度またはそれ以前のもので、本文や図には見やすいユニバーサルフォントを採用しています。

